

# 湖東定住自立圏の取り組み状況

問い合わせ先 企画課 ☎30-6101番、FAX 22-1398番

日本では現在、人口減少と少子高齢化が進んでいます。特に地方の状況は深刻で、三大都市圏を除いた地方圏では平成17年から30年間で、1、178万人の人口減少が予想されています。

このような状況を踏まえ、地方圏において、安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方圏から三大都市圏への流出を食い止めることを目指した新しい施策として「定住自立圏構想」を国が提唱しています。

この構想は、さまざまな行政サービスのうち、より高度なものや広域的に対応すべきものについて、「協定」に基づき市町村の垣根を越えて取り組むもので、これらの取り組みに対して、国が必要な支援を行うことになっています。

日本全体が人口減少社会となるなかで、彦根市は現在、人口は増加傾向にあります。しかし、現在の推計では平成31年をピークとして人口が減少していき、一方で高齢化は進行していく見込みです。

## 今日までの取り組み状況

彦根市では、定住自立圏構想に近畿地方唯一の先行実施団体として、愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町とともに1市4町の圏域で取り組んでいます。

平成21年4月15日には「湖東定住自立圏中心市宣言」を行い、この圏域において、地域全体のマネジメントなど、中心的な役割を担うとともに、圏域住民に対して積極的に各種のサービスを提供していく意思を表明しました。

平成21年9月には1市4町議会において、湖東定住自立圏形成協定の締結に関する議案を議決いただき、平成21年10月4日には、湖東定住自立圏形成協定合同調印式を開催し、近畿地方で初めてとなる湖東定住自立圏を正式に形成しました。

## 湖東定住自立圏共生ビジョン

現在、「定住自立圏共生ビジョン」を策定するため、民間会社や地域の関係者などで

構成する、共生ビジョン懇談会を開催し、協議を重ねているところです。

共生ビジョンとは、協定の実施計画にあたるものです。協定項目が15項目あります。それぞれについて共生ビジョンを策定します。いずれも検討中ですが、具体例として「公共交通」についての共生ビジョンをご紹介します。

公共交通は、地域住民の交通ニーズや利用の範囲を考えると、より広い範囲で考える方が効率的、効果的であり、利便性の向上が図られます。

現在、市域の一部で実証運行している「予約型乗り合いタクシー」の他町への乗り入れを可能にして各市町相互間の利用拡大を図ることや、JRや近江鉄道との接続を考慮したバスダイヤの改善やバス系統を再編し、分かりやすいバス路線の実現をめざすことを検討しています。

こうした取り組みにより、公共交通の利便性が向上するほか、高齢者やマイカー移動困難者の外出機会の増加、マイカーからの転換による交通渋滞の緩和、環境にやさしい低炭素社会の実現などに寄与します。

## 形成協定の概要

- ① 各町と締結した協定は、すでに1市4町で広域で取り組んでいることや新たに広域で取り組むものなど、内容は次のとおりです。
- ② 生活機能の強化に関する政策分野
- ③ 医療機関の機能分化とネットワーク化
- ④ 障害者（児）福祉サービスの充実
- ⑤ 次世代育成支援策
- ⑥ 圏域内図書館相互の多様なネットワークの構築および連携ならびに拠点図書館の整備による図書館サービスの充実
- ⑦ びわ湖・近江路観光圏構想の推進、農山村と都市との交流促進による観光振興
- ⑧ 環境
- ⑨ ごみ処理
- ⑩ 消防および救急搬送
- ⑪ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
- ⑫ 地域公共交通ネットワークの構築
- ⑬ (仮称)湖東三山スマートインターチェンジの整備
- ⑭ バイコロジー自転車道の整備促進と自転車道ルート(マップ)の整備
- ⑮ 地域の生産者・消費者等の連携による地産地消の推進
- ⑯ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野
- ⑰ 職員の人材育成等
- ⑱ 職員等の交流
- ⑲ コンピュータシステムの共同利用・共同開発

## 近畿ブロックを代表して定住自立圏構想推進セミナー in 彦根が開催されます

近畿唯一の定住自立圏として、定住自立圏構想の取り組み事例の紹介をするとともに、定住自立圏構想に関する理解を深めるために、総務省がセミナーを開催します。

日時 3月26日(金) 13:30～16:30  
 場所 ひこね市文化プラザ メッセホール  
 内容 国による講演や各地の取り組み事例報告  
 申込・問い合わせ先 自治振興課 ☎077-528-3231

# はーとるるメッセージ

## 2009

## 特選作品紹介 第2回

### 高齢者の人権を守るために

塩田 桃子さん (南中学校3年)

近年、医療や科学の進歩・生活環境や食生活の変化などに伴い、日本人の長寿化が急速に進んでいる。高齢者の人口が増えているということは、高齢者が暮らしやすい社会を作ることが大切ということになる。何故ならばそのことが、高齢者の人権を守ることになるからである。

街では、バリアフリー化、高齢者の為のいくつかの施設など作られているが、本当に十分だといえるのだろうか。

今の若い人達は、形だけ優しくして、心の中では高齢者をいやでさげたいと思っている傾向があるのではないかな、と私は思う。電車やバスの中で、普通の席でも譲れるなら、シルバースーツは必要なくなる。そういう点から、私にも今の若い人達の傾向があると思う。

三年前の夏、私は親せきに誘われ、区

内の老人ホームでボランティアをした。自分からはなかったのですが、初めはあまり乗り気ではなかった。しかし、気持ちが変わった。

高齢者の方が、若い世代とのふれ合いをとても望んでいることが分かったし、私と一緒にいた半日をとても喜んでくれた。そしてこのことは、私自身もうれしかった。

私の発見はそれだけではなく、このボランティアで、高齢者と接する上で約束ごとがあるのも知った。

一つは、「おじいさん」「おばあさん」と全員を同じ言い方でひとまとめに呼ぶのではなく、一人ひとりの苗字で呼ぶこと。この理由は一人ひとりを大事にすることらしい。

もう一つは、そのボランティアで知り得た情報を絶対に誰にも話してはいけないこと。これは、話をした本人に悪意は無くても、話をしてしまったことによっては、話された人が嫌な思いをしないようにする為だということ。

高齢者達から生きる知恵やヒントをもらえるのは今の私達だと思ったのだ。

優しい心遣いや気配りをしてくれたり、色々な事を話してくれたりして見習うべき点がたくさんあった。

人権とは、私達が幸せに生きる権利で、人種や民族、性別を超えて万人に共通した一人ひとりに備わった権利だということ。さっきの紹介した老人ホームでの約束ごととは確かに、一人ひとりの人権を守り、幸せに過ごす為のものである。しかし、老人ホームなどの施設に行かなくては、幸せになれないのではおかしいと思う。地域や家庭で十分に幸せを感じつつ、それをより豊かにする為の老人ホームであってほしいと私は思う。

私は祖父母が大好きだ。祖父母とはふれ合う機会が多いものの、他の高齢者とのふれ合いはほとんど無い。それは私だけではないと思う。まずは、高齢者とのふれ合いを積極的にしていくことで、世代間の穴を埋めることができるのではないだろうか。

私はまず、近所の方へのあいさつや声かけから始めてみようと思っている。



### 選評

以前、老人ホームでボランティアをしたときに知った「一人ひとりを大事にする」とは、どういうことか、ということをもとに自分の高齢者への思いをよくまとめています。

そして、若い人と高齢者との溝を埋めるためのふれあいとして、自分自身がいさつや声かけから始めたいという具体的な行動に結びついているところがいいですね。